

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
岩間駅周辺地区

令和3年3月

茨城県笠間市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	愛宕山ハイキング施設利用者数	人	13,000	14,500	17,000	確定 見込み	○	あり なし	18,269	R2年7月	○	- ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	年度前半において、前年度までの実績を上回っており、年度後半もコースのPRに取り組むことにより、月によって増減はあるものの、全体として利用者が増加した。
指標2	駅西(県道岩間停車場線)歩行者数	人	669	740	997	確定 見込み	○	あり なし	-	-	-	- □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	笠間市地域交流センターいわま「あたご」利用者の増加等要因として、駅周辺の歩行者数の増加がみられている。
指標3	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合	%	28.40	35.00	27.40	確定 見込み	● △	あり なし	-	-	-	- □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	笠間市景観計画に基づく景観づくりや多目的広場の充実により、岩間駅周辺の環境充実が進むことから、市民の満足度向上につながると考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	笠間市地域交流センターいわま「あたご」の利用者数	人	36,910	/	46,000	確定 見込み	○	あり	43,189	R2年7月	/	- ■ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	施設や施設での事業についての理解が進んでおり、着実に利用者の増加が見られている。なお、年度末においては、新型コロナウイルス感染症対策のため施設利用が制限されたため、その影響が見られている。
その他の数値指標2	良好な市街地が形成されてきていると感じている市民の割合(3年間平均)	%	28.40	/	32.31	確定 見込み	○	/	-	R1年9月	/	- □ 改善策はそのまま □ 改善策に補強が必要 □ 新たに改善策をたてる	笠間市景観計画に基づく景観づくりや多目的広場の充実により、岩間駅周辺の環境充実が進むことから、市民の満足度向上につながると考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	観光施設については、サービス向上や利用者ニーズへの柔軟な対応を図る必要がある。	○利用者に向けた施設の魅力向上を図るため、フォレストハウスのジオパーク関連展示資料の充実に取り組むとともに、情報発信施策として、ジオパーク等のガイドブック、ハイキングマップの内容を更新した。	○展示資料やガイドブック、ハイキングコースの案内等を充実させたことにより、ハイキング時の立ち寄りの場としての利用者が増加している。	
	多目的広場の充実	○商工会館の建物の取り壊しを行った他、多目的広場の利用促進策(地元イベントと連携したライトアップイベントの実施)を行った。	○地元と連携したイベントを実施することにより、多目的広場の認知が進んでいる。	○利用者から施設充実に対するニーズ(トイレ新設)はないものの、引き続き「必要性」について検証が必要である。
	景観まちづくりの推進	○景観計画において、岩間駅西地区を含めた駅周辺を位置づけ、景観向上に取り組むこととしている。	○笠間市景観計画で「景観地区」、「文化景観地区」、「暮らし景観地区」に位置づけられていることを踏まえ、今後関係者との連携を強化し具体的な施策を展開することとなっている。	
改善策	駅前市街地の賑わい創出	○笠間市地域交流センターいわま「あたご」を会場としてフリーマーケットを開催した。	○天狗の郷バザールdeいわまを毎月第2日曜日に開催し、約100店舗が出店している。	○地元事業者と連携しながら、今後も継続的に開催を行う。
・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	笠間市地域交流センターいわま「あたご」のハイキング利用促進	○指定管理者及び観光課で作成した「ハイキングマップ」を常時配置し、ハイキング利用者への情報発信を実施した。 ○ハイキング利用者への駐車場として活用を促進するとともに、指定管理者の自主事業として、ハイキングイベントを開催した。 ○筑波山地域ジオパーク「吾国山・愛宕山ジオサイト」のPRとして看板の設置を行った。	○ハイキングイベントについては、H30.5.19(16人)、R1.5.19(19人)と実施してきたが、R2については、新型コロナのため実施できなかった。 ○一方、ジオハイキングをR2.8月から実施し、48人の参加者があった。 ○また、駐車場は、年間約100名の方が利用している他、ジオツアーなどのイベントの集合場所としても利用している。	○新型コロナの影響を考慮しながら、今後イベントの規模や開催回数などを検討する。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項